

第 117 回日本外科学会定期学術集会 特別企画 シンポジウム 2

「医療安全ガバナンスの確立を目指した外科組織のあり方」挨拶

国立大学法人群馬大学長 平塚 浩士

第 117 回日本外科学会定期学術集会の特別企画シンポジウム 2 「医療安全ガバナンスの確立を目指した外科組織のあり方」の開催に当たり、群馬大学を代表して一言ご挨拶を申し上げます。本日は、お忙しい中、特別企画シンポジウムに 多数の皆様方にお集まり頂き、誠に有り難うございます。

まず、はじめに私ども群馬大学が腹腔鏡等の医療事故により、患者やご家族の皆様はもとより、医療に携わる皆様方に多大なるご迷惑とご心配をおかけしたことを、お詫び申し上げます。

本学術集会では、医療安全の問題をより重視する立場から、メインテーマを「医療安全そして考える外科学 (Clinical Safety and Contemplation of Surgical Science)」とし、医療安全の観点からの特別企画として「医療の安心安全を確かなものに」および「医療安全ガバナンスの確立を目指した外科組織のあり方」が企画されました。

群馬大学医学部附属病院では腹腔鏡手術等の医療事故が判明した平成 26 年 6 月以降、再発防止に努め、安心・安全で質の高い医療を提供する病院として再生するため、様々な改善や改革に努めているところです。そのような状況のもと、本学教授の桑野博行が会頭として開催されている外科学会学術集会におきまして、医療安全について議論を深めることは、極めて有意義であると考えております。

さて、本シンポジウムの主題には、「医療安全」、「ガバナンス」という 2 つのキーワードが含まれています。

一つ目の「医療安全」であります。医療という病を癒す行為が安全なものであることは、患者にとってごく当たり前の願いであります。また一方で、その行為が、ある一定のリスクを伴うものであることも避けがたい事実であります。しかし、ひとたび医療事故が起これば、患者やその家族はもちろんのこと、関わった全ての医療者も例外なく、辛苦の極みを味わうこととなります。従いまして医療安全の推進

は、医療に携わる全ての機関、医療者に求められる最も基本的な要件の1つであると考えます。

二つ目は「ガバナンス」です。本来「統治」や「支配」などを意味するこの用語は、現在、至るところで目にし、耳にする言葉であります。様々な分野で使用される「ガバナンス」ですが、では「医療安全ガバナンス」の意味するものは何でしょうか。私はそれを「医療に関わる全ての機関や組織、またそれを構成する一人一人が、医療安全の確立にむけた課題に組織全体で取り組む際の、管理運営能力」ではないかと考えます。

群馬大学附属病院では外科診療体制等の再構築をはじめ、医療安全管理体制の機能強化など、これまでに多くの改革を実行してまいりました。詳細につきましては、この後の、本学の西山 正彦教授の御講演をお聴きいただければと思いますが、これらの取り組みにより、群馬大学附属病院が安心・安全で、質の高い医療を提供できる病院になること、また、地域のみなさま方から、厚い信頼を得られる病院に生まれ変わることを目指し、今後も信頼の回復に努めて参る所存です。

また私たちは、このような自らの具体的な取り組みを積み重ねる一方、こうした教訓を医療界全体のものとして共有し、医療安全確立のために自分たちの努力の方向が正しいものとなるよう不断に問い続けなければなりません。

そこで重要になるのは、実際の医療現場の状況や問題点を十分知った上で、医療安全確立の支障となる原因を考え抜き、新しい解決策を提示するに至る知的な活動です。

本日のシンポジウムをきっかけに、今後、日本の外科学分野、ひいては医療界全体で医療安全を推進する上での課題について、私たちの理解が大いに深まることを期待いたします。

ご参集の皆様も、主催者の意図をお汲み取り頂き、短い時間ではありますが、実り多いシンポジウムにして頂くことを祈念いたしまして、冒頭のご挨拶といたします。